

コミュニティスクール新聞

発行所 藤枝
中学校区学校
運営協議会
事務局

今年も迎えたコミュニティスクール

令和3年度から始まった藤枝中学校学校運営協議会(コミュニティ・スクール)も本年度で4年目を迎えます。この間、いかにこあいう運動の定着や小中4校での学校経営計画の連携、また小学生と中学生の交流会による中一ギャップ軽減努力など、様々な取り組みを行ってきました。本年度は、高校生をの力を借り6月から『はばたき学習室』を開催し学習習慣の定着を支援していく予定です。

学校運営協議会委員紹介

昨年度から7名の

なぜ、瀬戸川？

藤枝市と焼津市を流れる瀬戸川。古くからそう呼ばれるこの名前の由来は何なのでしょう？稲葉地区助宗では奈良時代を中心に大量の須恵器が作られています。須恵器を作る人、『すえと』が名前の由来だと言われています。

コラム

平安時代に作られた和名類、従抄の写本には、助宗地区を西刀(せと)と呼んでいた記録が残されています。地名や神社名には今では忘れられてしまった私たちの暮らしの大切な記憶が残さず、少なくなっているのだと思います。

締役)・横山秀雄(静岡新聞取締役)・興津博文・塚本一弘(共にコミュニティ・スクールディレクター)以上16名で本年度の学校運営協議会を進めて参ります。

第1回学校運営協議会



令和6年度の第1回学校運営協議会が5月28日(火)、藤枝中学校を会場に開催されました。

会長・副会長選任

全学校運営協議会委員の参加の下、会長には藤枝地区自治会代表の工藤道夫氏、副会長には稲葉地区自治会代表の堀井弘文氏が選任されました。

学校経営方針の提案と承認

小中4校から各校の学校経営方針が説明され協議の中で承認されました。

コミュニティスクールについて7名の委員が入れ替わったことからコミュニティ・スクールについての説明がなされました。法的にも位置付けられ、地域と学校をつなぐ仕組みであり、『協働』がキーワードであることを確認しました。

委員からの主な意見

各委員から多くの意見や助言をいただきました。紙面の関係上、主なものをご紹介します。

- ・地域と学校の橋渡しとして、この学校運営協議会の場を有意義なものにしていきたい。
- ・ふるさとに誇りを持ち郷土愛を持つた人を育てるお手伝いをしたい。
- ・人口減少が続いているが、若い人が地元に戻って子育てができる環境でなければならぬ。そのためにはコミュニティセンター的な機能も有する学校が必要である。
- ・生涯学習センターにある横断幕を見て、学区でスローガンを決めて、それを目指して一丸となって取り組む重要性を感じている。地域の協力なくして学校なし、学校の協力なくして地域なしといえる。